

# 平成 26 年度（第 136 期）事業報告書 （平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

公益社団法人東京地学協会

## I. 事業方針

地学を奨励し、地学における専門分野の連携を図り、もって総合的な地学の進歩普及を推進する。

## II. 事業内容

### 1. 公益事業

#### (1) 普及・啓発事業（定款第 4 条第 1 号）

##### ① 講演会の開催

###### i) 春季講演会

日時：平成 26 年 5 月 17 日（土）15：30～17：00

場所：東京地学協会講堂

演題：「日本と世界の奇岩に見るジオ多様性」（参加者 12 名）

加藤碩一（東京地学協会理事・産総研）「日本奇岩百景とジオ多様性」

須田郡司（石の写真家・巨石ハンター）「世界奇岩巡礼」

###### ii) 秋季講演会

日時：平成 26 年 10 月 25 日（土）14:00～17:00

場所：弘済会館

演題：「今時の恐竜事情」（参加者 30 名）

富田幸光（国立科学博物館）「恐竜学の最近の進歩」

東 洋一（福井県恐竜博物館特別館長）「日本の恐竜化石について」

###### iii) 地学クラブ講演会

・第 285 回 平成 26 年 6 月 14 日（金）「スロベニアのカルスト地形」漆原和子（東京地学協会理事）（参加者 20 名）

・第 286 回 平成 26 年 7 月 25（金） 16:00~17:30

「ASEAN 鉱物資源データベース—資源地質情報の整備事例」大久保泰邦（産総研）（参加者 12 名）

・第 287 回 平成 26 年 10 月 3 日（金） 16:00~17:30 「海洋底科学と海底地形名」小原泰彦（海上保安庁）（参加者 18 名）

・第 288 回 平成 26 年 12 月 19 日（金） 16:00~17:30 「ジオ鉄マップとは？その事例研究」藤田勝代（深田地質研究所）（参加者 20 名）

・第 289 回 平成 27 年 2 月 6 日（金） 16:00~17:30 「筑波山地域ジオパークをめざして」（参加者 13 名）

「筑波山地域の日本ジオパーク認定に向けた取組」霜越彩美（つくば市役所ジオパーク推進室）

「ジオの魅力を感じ山懐の魅力」野末たく二（結エディット）

② 見学会の開催

以下の見学会を実施した。

i) 海外見学旅行

「スロベニア・ジオツアー」

案内者：漆原和子（東京地学協会理事）

平成26年9月6日（土）～13日（土）（参加者14名）

ii) 国内見学旅行

「榛名山ジオツアー・日本のポンペイを訪ねて」

案内者：下司信夫・竹内圭史（産総研）

平成26年11月29日（土）～30日（日）（参加者19名）

③ 広報活動

i) 日本地球惑星科学連合大会（平成26年4月28日～5月2日）において、展示ブースを設け、協会の概要や最近の講演会及び見学旅行を紹介するパネルを展示するとともに、地学雑誌の頒布を行った。

ii) 協会ホームページの充実を図った。

④ 日本地学史の編纂

戦後の地学史の「研究の成果（個別分野の調査研究）」のうち、地震学、火山学、海洋学、陸水学の分野について、地学雑誌掲載用原稿のまとめを行った。また、地理学、気象学、地質学などの分野についても執筆のための準備を始めた。

⑤ 図書室の整備

内外の諸学会・機関から84種類の雑誌等を受入れるとともに、新着雑誌は1～3年保管したのち随時廃棄するという今後の受入雑誌の管理方針をまとめた。また、現在入手困難となっている協会刊行の書籍や地図のデジタル化を進め、一部について試験的なWeb公開を行った。

⑥ 専門家紹介（ジオエキスパート制度）

5件の専門家紹介依頼があり、それぞれに適切に対応した。

i) 依頼団体：番組制作会社「株式会社イエロー」

要望のあった内容：モスクワ上空に現れた『穴あき雲』の成因の解説者紹介

ii) 依頼団体：大田区役所

要望のあった内容：東京湾に等距離線を引くに当たり専門的な見地から助言して貰える専門家紹介

iii) 依頼団体：フジテレビ制作会社

要望のあった内容：アリゾナ・デスバレーの動く石を解説して貰える専門家紹介

iv) 依頼団体：WWF ジャパン

要望のあった内容：「鳴門再生可能エネルギー」プロジェクトにおいて、地理情報システム(GIS)データを活用できる専門家紹介。

v) 依頼団体：NHK TV 番組制作会社

要望のあった内容：アリゾナ・デスバレーの地理および地質全般について詳しい専門家紹介

⑦ 関連団体との協力の推進

- i) 日本地球惑星科学連合, 日本自然史学会連合などの関連団体との連携を進めたほか, 国際地理オリンピック, 国際地学オリンピック, 地層名等の層序単元登録に係る委員会, GIS day in 東京 2014, 北淡国際活断層シンポジウム 2015, 第 12 回 SEGJ 国際シンポジウム Geophysical Imaging and Interpretation 等への協賛あるいは後援を行った。
- ii) IGU2014 クラクフ大会日本紹介展示への寄付, 地学オリンピック日本委員会への寄付, 2016 年国際地学オリンピック日本大会への寄付など, 関連諸団体に財政的支援を行った。
- iii) 子供向け自然史啓蒙書『理科好きな子に育つふしぎのお話し 365』(自然史学会連合監修) の出版に際し, 編集協力を行った。

⑧ 伊能忠敬没後 200 年記念事業の推進

事業推進の基本方針を理事会で審議するとともに, 関連事業の調整を図る「伊能忠敬没後 200 年記念事業構想委員会」を設置した。

(2) 出版・頒布事業 (定款第 4 条第 2 号)

① 地学雑誌の発行・頒布

会員の研究成果の発表を主目的とした通常号 2 冊と最新の話題や成果を集めた特集号 4 冊、全 1,152 ページ (第 123 巻第 2 号から第 124 巻第 1 号まで) を発行した。

- i) 第 123 巻第 2 号 特集号: 東京—過去・現在・未来— (Part II) p.159-322 13 論文 (特集号 Overview 及び巻頭言を含む。) 及び地学ニュース (N13-N17)
- ii) 第 123 巻第 3 号 通常号 p.323-387 4 論文及び地学ニュース (N19-N54)
- iii) 第 123 巻第 4 号 特集号: 東京—過去・現在・未来— (Part III) p.389-641 17 論文 (特別寄稿, 座談会, 特集号 Overview 及び終わりに当たってを含む。) 及び地学ニュース (N61-N109)
- iv) 第 123 巻第 5 号 通常号+小特集: フィリピン・ルソン島のイロシンカルデラとブルサン火山の地質と最近の噴火活動 (その 2) p.643-788 9 論文及び地学ニュース (N111-N118)
- v) 第 123 巻第 6 号 特集号: 津波堆積物の地球化学と環境科学 p.789-948 12 論文 (特集号 Preface 及び巻頭言を含む。) 及び地学ニュース (N119-N152)
- vi) 第 124 巻第 1 号 通常号 p.1-146 7 論文及び地学ニュース (N1-28) 「日本の露頭・景観 100 選」シリーズを地学ニュースで開始した。

なお, 本誌発行 1 ヶ月後を目途に電子版をオンラインジャーナル (J-STAGE) として公開し, 地学協会ホームページからもアクセスできるようにしている。

これらの企画・編集のための委員会を, 特集号に関するものを含め 15 回開催した。

② 地質図幅等の頒布

独立行政法人産業技術総合研究所との間で平成 22 年 3 月 1 日に結ばれた「地球科学図及び地球科学データ集の有料頒布業務」についての委託契約に基づき, 同研究所地質調査総合センター発行の地球科学図及び地球科学データ集等 762 種の出版

物を委託販売により頒布した。なお、平成 23 年 9 月からは海外からの購入希望にも応じている。今年度の頒布実績は、延 1,970 部、払出総額にして約 296 万円であった。

(3) 研究等助成・表彰事業（定款第 4 条第 3 号）

① 研究等助成

今年度の申請件数は、研究・調査助成 12 件及び国際研究集会助成 4 件であった。審査の結果、前者について 8 件、後者について 2 件を採択した。

② 表彰

申請がなかった。

2. 収益事業（定款第 5 条第 1 号）

地学会館ビルの一部賃貸・会館の保全管理事業：引続き地学会館ビルの一部を賃貸するとともに、3 階～7 階のトイレ及び下水管の修繕等必要に応じた改修を行った。

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないので作成しない。